



充実の1学期→よい夏休みを・・・

早いもので、1学期もおうちの方や地域の方のご理解ご協力の下、まとめの日を無事迎えることができました。有り難うございました。夏休みを楽しみにしている子供たちに対して、私から以下のような話を終業式で行い、1学期のまとめとしました。

🌸 片付け名人み～つけた! 友達が片付け忘れたところを何も言わずに、いつもそっと片付けてあげていましたね。教室が綺麗なのは、あなたのおかげです!! ありがとう。

🌸 お掃除名人あおぞら3組さん! 汚れているところを見つけてピッカピカに掃除をしていて素晴らしいです!! 綺麗な教室気持ちがいいね。これからも続けていきましょうね。

🌸 6年生が1年生に行っているふれあい活動。朝、休み時間、給食時間、掃除時間など様々な時間に進んで行なっている姿が素晴らしいですね。1年生も6年生も嬉しそうで、見ている方も嬉しくなります。

今お話ししたのは、校長室前にある、宝積桜に咲いた花に書かれてあるお話の一部です。
この時間では紹介しきれない素敵な姿が、宝積桜の木に咲き始めています。

校長先生は、宝積桜の前に立って、咲いた花を眺めていると心がとても温かくなります。優しい気持ちになります。

誰かのために、励ましたり、親切であったり、お世話をしたり、自分でできることは何か考え、進んで行動すると、宝積桜に素敵な花が一輪、また一輪と咲いていきます。

さて、改めてこの一学期、74 日間の生活を振り返った時、
心に残っている思い出は何ですか。



楽しかった思い出、頑張って取り組んだ思い出など様々あったことでしょう。

校長先生の心に残っている皆さんの姿は

「学年宝積に頑張って取り組んでいる子」、「発言を頑張っている子」、「やるべきことに真面目に取り組んでいる子」、「生き物の世話を忘れずに続けている子」、「爽やかな挨拶をいつもしている子」、「元気に外で遊んだりマラソンを頑張ったりしている子」、「隅々まで丁寧に掃除をしている子」、「クラスの仲間に優しさをそっと配ってあげている子」、「学年や様々な行事の目標達成のために努力している子」などあればキリがありません。

こうして振り返ると、皆さんの中にキラッと光る宝積のかけらがあることが嬉しいです。

さて、明日から26日間の夏休みがスタートします。

皆さんにとって、楽しい・・・いや「よい夏休み」であって欲しいです。

「よい夏休み」にしていくために、次のことを是非心に留めて生活してみましょう。

- 1、交通ルールを守り安全な暮らしをしましょう。
- 2、海や川や山に行くときは大人と行きましょう。
- 3、テレビやゲームの時間を守りましょう。
- 4、夏祭りや子供会行事に参加し、様々な人と関わり、
楽しい時間を過ごしましょう。
- 5、家族の一員として進んでお手伝いに挑戦してみましょう。
- 6、心に残るような本と出会いましょう

それでは、8月21日(木)の二学期の始業式には、元気な皆さんと会えるのを楽しみにしています。よい夏休みを!!



一学期を振り返って…

一学期の反省と二学期の抱負

六年 中沢 逞馬

「宝積」新しい未来を切り拓ける学年スローガンのもと、最高学年として取り組んできた一学期。運動会や陸上記録会などの行事を通して、自分を成長させることができた。その中で、一番がんばったのは、陸上記録会です。

昨年は、選手に選ばれませんでした。今年、走り幅跳びの選手になることができました。放課後の練習はもちろん、家に帰ってからも助走の歩数や踏切のタイミングの合わせ方を調べるなど、自分ができることを頑張りました。また、練習以外でも選手として全校から応援されるように、あいさつや時間を守る、宿題に取り組むことなど、やるべきことをやるように意識しました。そのようなことを積み重ねたからこそ、本番では四位入賞という記録を残すことができたのだと思います。陸上記録会の取組を通して、目標に向かって努力することや日々の生活の大切さを感じたので、これから生かしていきたいです。二学期に頑張りたいことは、勉強です。国語や算数の復習やテストで間違えたところを中心に宿題で取り組み、力をつけるように努力していきたいと思っています。



一学期を振り返って

三年 伊藤あやか

わたしが一学期にがんばったことは、ろうか歩行とそうじです。

ろうか歩行では、右がわを足音がしないように気を付けて歩くことができました。

そうじでは、もくどうですみずみまでそうじをすることができました。これからも続けていきたいです。

二学期にがんばりたいことは、あいさつです。一学期は、明るいあいさつがあまりできなかったのですが、二学期はだれにでもあかるく、さわやかにあいさつをしたいです。あいさつした人も、された人もサンシャインになれるようなたいこぼんのあいさつができるようになります。



衝撃
ニュース

『脳を傷つけるマルトリートメント』



盛岡市学校保健会研修会で講演いただいた福井大学子供のこころの発達研究センターの医師であり教授の友田明美先生から衝撃的な話を伺いました。

「**子供への避けたいかわり＝マルトリートメント**」により子供の脳が傷つき、また精神疾患にかかるリスクが生涯**3倍に、さらには寿命を20年も縮めてしまう**のだそうです。では、「マルトリートメント」（以下マルトリ）とは…。身体的虐待、性的虐待、心理的虐待、ネグレクト、といった児童虐待があてはまります。また、虐待とは言い切れない、**どの家庭でもおこりうる「大人から子供に対するよくない関わり＝避けたい子育て」も含まれる**とのことでした。▶例えば、「言うことを聞かないので軽くつねる」、「他の兄弟と比べる」、「長時間スマホを見せておく」などもマルトリのひとつです。▶その中で、「**長時間スマホを見せておく**」育児について、友田先生によると…▶最近、乳幼児期の子供にゲーム機やスマホなどデジタル機器を与えっぱなしで育児をする親、赤ちゃんを見ず、動画を見ながら授乳をする親など避けたい子育てをしている親が多くなってきており、ネグレクトと同様の影響が子供の脳に現れ、またコミュニケーションの変容もみられる。▶脳は、1歳で大人の70%に成長するといわれ、乳幼児期に脳のほとんどが育つ。また、**子供は生まれてから5歳ころまでに親や養育者との間に強い絆を形成し、これによって得られた安心感や信頼感を足がかりにしながら、周囲から世界へと関心を広げ、認知力や豊かな感情を育てていく**という成長過程をたどる。しかし、**この大切な時期にスマホを長時間見せっぱなしにすることは、脳を傷つけ、親子の貴重なコミュニケーションの時間をなくし、子供の愛着形成を阻害してしまう**。脳が健康に育つためには、「**十分な栄養・良好な睡眠**」と「**良い活動・良い経験**」が大切であり、子供の健全な発育には、**特定の大人との愛着形成が不可欠**である。とのことでした。▶子供の愛着形成が阻害された愛着障害では、**集団行動がとれなくなる・粗暴になる・他人に対して無関心・用心深い・イライラしやすい・多動・友達とのトラブルが多い・人との距離感がたもてない（人見知りがない）**などの行動も現れるようです。▶**スマホを見ていれば、静かで良い、親自身の時間が邪魔されないなど一見よさそうですが、成長とともに、子供自身が苦しみ、また親も悩み苦しむことにならないよう子供とのコミュニケーションを大切に子育てしていきたい**ものです。▶友田先生は、傷ついた脳も愛着の再形成で脳活動が回復し、成長の遅れが回復する!とおっしゃっていました。そのため、**「褒める」こと**だそうです。また、養育者が「孤立化＝孤育て」にならないようみんなで子育てをしていく「**とも育て**」も必要ということでした。▶子供たちの将来が明るいものになるよう、大人みんなで責任をもって育てていきたいものです。